学校番号	201

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	「書Ⅱ」（教育図書）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰで学習し獲得した力を踏まえ、さらに発展させ、多様な技法を身につけること。
・古典臨書、漢字仮名交じり文の創作などの幅広い活動を通して、個々の書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばしていくこと。
・授業だけでなく【鑑賞】の時間をとるために、年間３回以上の【鑑賞レポート】を提出すること。書道に限らず幅広いジャンル（絵画・写真・彫刻・陶芸など）を鑑賞し、展示方法や空間利用など展覧会における芸術科書道についても考察すること。

2　学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。
(2) 書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し、表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期・二学期	篆刻	・篆刻を構成するさまざまな要素、書体・書風や配字などによる表現の効果を理解する。 ・篆刻の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し、工夫しながら表現する。	a:篆刻を構成するさまざまな要素、書体・書風や配字などによる表現の効果を理解している。（知） a:線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国などの文字と書の伝統と文化、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深めている。（鑑・知） a:目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能、書体・書風、配字などによる全体の構成の技能を身につけている。（技） b:篆刻の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫している。 b:作品の価値とその根拠、生活や社会における篆刻の効用について考え、篆刻のよさや美しさを味わって捉えている。（鑑） c:主体的に篆刻の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 c:主体的に篆刻や刻字の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（鑑）	作品	プリント	振り返りノート 観察
	漢字の書	・楷書、行書、草書、隷書及び篆書の古典臨書を通じて、表現形式に応じた全体の構成と、漢字の書を構成するさまざまな要素を理解する。 ・漢字の書の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら表現する(創作)。	a:漢字の書を構成するさまざまな要素や、各書体の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解している。（知） a:線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国などの文字と書の伝統と文化、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深めている。（鑑・知） a:各書体の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和などによる全体の構成の技能を身につけている。(技) b:各書体の古典の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 b:各書体の古典の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉えている。(鑑) c:主体的に漢字の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 c:主体的に漢字の書の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（鑑）	作品	プリント	振り返りノート 観察

三学期	漢字仮名交じりの書	・目的や用途、表現形式に応じた全体の構成と漢字仮名交じりの書を構成するさまざまな要素を理解する。 ・感興や意図に応じた、漢字（楷書・行書・隷書・草書）と仮名（平仮名・片仮名）の調和などによる全体の構成を工夫しながら表現する(創作)。	a:漢字仮名交じりの書を構成するさまざまな要素や名筆、現代のさまざまな書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。（知） a:線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じりの書の特質とその歴史、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深めている。（鑑・知） a:目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能、漢字と仮名の調和などによる全体の構成の技能を身につけている。（技） b: 目的や用途、表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現、現代に生きる創造的な表現について構想し工夫している。 b:創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉えている。（鑑） c:主体的に漢字仮名交じりの書の創造的な表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 c:主体的に漢字仮名交じりの書の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（鑑）	作品	プリント	振り返りノート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度